

豊かな森の再生と地球の元気づくりを目的に活動（岐阜県郡上市）

事例の概要（事業名：里山資源有効活用事業〔めいほう里山もくもく市場〕）

豊かな森の再生と地域の元気づくり。この夢を現実にするための手始めとして、山に放置するしかなかった切り捨て間伐材の有効活用に着手。スギやヒノキを薪として販売することで、森林所有者の意識喚起につながる**小さな経済の循環**を生み出し、過疎地域の**新たなビジネスモデル**の実現をめざす。

事例の内容

事業主体：明宝山里研究会

事業内容：薪ストーブの薪として使用できる原木（玉切り含む）、薪の販売。めいほう里山もくもく市場の開設（年2回）。薪割り体験など、都市部薪ストーブユーザーを対象としたイベントの開催

取組経過：平成22年10月～11月 郡上市が実証実験として、林地残材の販売を市場形式で実施。
平成23年9月 地域内の自伐林家、森林組合OBらで明宝山里研究会を設立
平成23年10月30日、11月6日 めいほう里山もくもく市場を開設
平成24年5月4日 森づくりを目的とした植樹事業を実施
平成24年9月16日 薪ストーブユーザーを対象とした交流体験イベントを開催
平成24年10月 明宝山里研究会のホームページを開設
平成24年10月21日、28日 めいほう里山もくもく市場を開設

総事業費：平成23年度 1,400万円（うち過疎債 1,300万円）
めいほう里山市場開設にかかる経費（器具使用料、チラシ制作等）
薪と原木（間伐材）の販路の拡充のPR活動にかかる経費（チラシ作成、雑誌掲載料等）

事業の効果：平成23年度原木、薪材取扱い量 原木28m³ 薪290束
平成24年度10月末現在原木、薪材取扱い量 原木91m³ 薪1,700束



林地残材を軽トラックで搬出



めいほう里山もくもく市場の様子

ポイント

■ 取り組み開始前の状況

- ・ 森林所有者の山への関心の希薄化
- ・ 放置された間伐材の未活用

■ 取り組み後の状況

副業型林業に向けた仕組みの実証ができ、事業開始から3年目で、原木及び薪の取扱い量が大幅に増加した。また、薪ストーブユーザーにターゲットを絞り込む戦略にしたことで、副業型林業ともいえる仕組みができあがりつつある。

山を活かすコミュニティビジネスの実現

明宝山里研究会

郡上市明宝は、面積の95%が森林。昔から、山の恵みを無駄なく活かし、その資源を暮らしに役立ててきた山里です。この豊かな恵みを活かして、地域を元気にできないか……

そんな想いから、森林組合OB、自伐林家、現役森林組合員など11名が集まって会を結成し、現在は14名のメンバーで活動をしています。

明宝山里研究会ホームページ

<http://www.meiho-yamazatoken.jp/>



薪のストックヤード。薪材の販売は増加